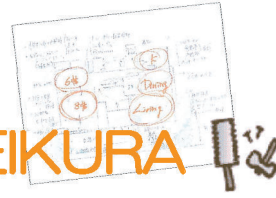


お宅拝見！

カフェ&ギャラリー

慧蔵

KEIKURA



築八十年の古民家を

風情あるカフェに再生

昭和初期に建てられた古民家を改修し、ギャラリーとカフェを開きたいと夢高らかに語られたご夫妻の熱い想いを大切に、民家再生工事に取り組みさせていただきました。民家の持つやさしさと強さを壊さずに新しい息吹を吹き込むよう駆使し、時代の融合を見事に果たした出来栄となりました。

蔵を再生したギャラリーと民家母屋を再生したカフェでは、陶芸作品の展示と地元永源寺の食材を採り入れた美味しいお料理をご提供しています。気さくで穏やかなご夫妻がお出迎えしてくるので、是非一度足を運んでみてください。



(上) 地元永源寺の染織家作のれんと、アフリカ原産のゼブラウツドで造ったサインが、静かな町並みの中で目印となって出迎えています。

慧蔵のご主人より今回の古民家再生についてコメントをいただきました。

自分の家に居ながら、居間に座っていると、とてもくつろげ癒されます。それは「我が家(店舗)」であるからという事だけではなく、古民家特有のゆったりとした間取りであったり、梁や柱・家具などに蓄積された時の流れが、そうさせるのだと思います。

現代の感覚では、我が家の家屋の高さを考えると、十分に二階建てのボリュームがあるのですが、そこは「茅葺き」で、一階のみのつくり、結果その天井の高いこと。又、天井一面に貼られた煤竹の渋さ。限られた空間の中で「効率」をとことん追求する現代の家屋とは、「生活」に対する考え方が基本的に違うのでしょね。

店舗作りの際には、この「癒しの空間」を最大限残しながら、そこに少しずつ現代的なデザインを取り込んでいくよう留意しました。



(左) のれんをくぐると土間の玄関。民家和室のカフェはとても落ち着いた癒し空間。



田舎に遊びに来た気楽さで、ほっこり楽しんで楽しめるカフェ



(上) 蔵の戸をリメイクしたテーブル。桐の天然木で手造りした座椅子は座り心地抜群。

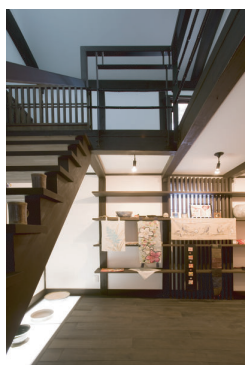
作家の温もりが伝わる『蔵ギャラリー』

土間通路を奥へ進むと左にある蔵ギャラリーには陶芸作家をしておられるご子息の作品が展示されています。

どれも作り手の指先の温もりが伝わってくるような味わい深い作品ばかり。蔵の漆喰壁・天然木の床材・間接照明が作品をふんわり包み込んでいるような、趣のある蔵ギャラリーです。



(上・左) 左墨モルタルと敷石で仕上げた通路。古民家の梁の高さと奥行きがゆとりを生む空間となっています。左奥は蔵ギャラリー。



(上・左) 幻想的な雰囲気をかもし出している『蔵ギャラリー』の内部